

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立唐津東高等学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	○基礎学力の向上については、概ね目標を達成することができた。次年度も電子黒板や学習用PCを活用しながら、学力向上につながる教科指導の研究と実践に努めていきたい。大学入試の結果についても、概ね目標を達成することができた。次年度も大学入試問題研究や進路指導研修をより充実させ、教科指導力の向上と進路情報の把握に努め、生徒の進路希望の実現を図ってきたい。 ○心の教育、健康・体づくりについては、目標を概ね達成することができた。次年度も豊かな心を身に付ける教育、佐賀への思いを醸成するための教育活動等の充実を図ってきたい。また、いじめについても、すべての職員が基本方針を理解し、それに基づいて行動することで、引き続き早期発見、早期対応に努めていきたい。 ○業務改善、教職員の働き方改革については、当初予定していた具体的取組についてすべて実施したが、目標達成には至らなかった。次年度は目標達成に向けてより効果的な取り組みを検討していきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	校訓「光 力 望」のもと、「自主自律」の精神を培い、知徳体の調和のとれた生徒を育成する。地域や国際社会の発展に貢献する高い知性と志を備えた心身ともに逞しい生徒を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	①生徒一人ひとりの進路希望の実現 ②わかる授業実践と授業改善への取組 ③社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育の充実 ④グローバル人材、チャレンジ精神を持った生徒の育成
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標(数値目標)					
●学力の向上	○基礎学力の向上	○評定5の生徒の割合を45%以上とし、評定2以下の生徒の割合を4%以下とする。	・授業改善を行い、わかる授業を実践するとともに、効果的な課題を与える。 ・電子黒板、学習用PCを用いて効率よく授業を行う。	B	・評定5の生徒の割合は48.1%、評定2以下の生徒の割合は4.2%だった。 ・電子黒板や学習用PCを有効に活用しながら、わかりやすい授業を行った。	A	・わかりやすい授業を実践されており、学力向上を目指す姿勢が伝わってきた。 ・授業を参観させていただいたが、皆が真剣に学習に取り組んでおり、好感が持てた。 ・学習の成果を客観的に評価できる手法を考えてほしい。
	○進路実現を見据えた学力の向上	○国公立大学の合格者数を130名以上とする。 ○東京大学、京都大学の合格者数を合わせて3名以上、九州大学の合格者数を20名以上とする。 ○大学入試問題研究会や進路指導研究会等への参加人数を延べ20名以上とする。	・進路検討会や模試結果分析をもとに、進路・学年・教科と連携して、教科指導力の向上を図る。 ・「進路だより」、「進路のしおり」を発行し、進路情報の提供に努める。 ・「大学出前講座」、「九州大学訪問」等を開催する。 ・大学入試問題研究会や進路指導研究会等の研修会への参加を通して、指導力向上と的確な進路情報の把握に努める。	B	・進路検討会や学力分析会を行い、進路と学年の連携はできた。さらなる教科指導の意識向上を図ってきたい。 ・「進路だより」、「進路のしおり」は予定通り発行し、進路情報の提供に努めた。 ・コロナ禍により、校外行事のほとんどは中止、縮小とした。講演会等、オンライン活用を推進した。 ・大学入試問題研究会等の研修会への参加もオンラインを主とした(参加者15名)。 ・国公立大学合格者117名(過年度6名)、東大1名(過年度)、九大18名(過年度1名)、国立大学医学部2名(佐大)(過年度1名)など。	A	・生徒が希望する進路を導く取り組みがなされていると感じた。 ・最終的には進路決定は本人の決断だが、提供される進路情報が多いのは助かります。 ・進路情報の提供に関する取り組みは評価できる。大学出前講座や大学訪問などもよい取り組みです。 ・生徒の進路実現のために、きめ細かく指導されていると思う。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観、正義感、感動する心を持つ生徒の割合を90%以上にする。	・学校祭のクラス展示やクラスマッチ、修学旅行、ボランティア活動、芸術鑑賞会等の特別活動のほか、人権同和教育に関する講演会やホームルーム活動を通して、豊かな心を身に付けさせる教育活動を行う。	A	・人権・同和教育講演会やホームルーム活動の取り組みを通して、自他の生命を尊重する心や他者への思いやり、倫理観、正義感、感動する心、差別を許さない心をもつ生徒の割合は97%になった。	A	・感動することは若いときには非常に重要だと思う。特に、芸術的なことなど質の高いものに触れる機会が多くなることを望みます。 ・豊かな心を身に付けるためのさまざまなイベントを行うことには大きな意義があると思う。 ・生徒に倫理観、正義感等をしっかりと教える必要があると考える。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教職員を90%以上とする。	・いじめの対応についての研修、会議を年間に2回以上行う。	A	・いじめの早期対応に重点を置いて取り組んだ。職員や生徒への研修、いじめ防止標語の募集を行った結果、生徒の意識改革が進み、認知が2件と少なかった。また、早期対応ができ、早期解決が図れ、加害・被害が最小限になった。	A	・いじめへの対応マニュアルは、たいへんよくできていると思う。 ・いじている実感のない人にどのようにして気づかせるかということが大きな課題だと思う。 ・教職員の声かけで救われる生徒も多いと思う。今後も生徒の様子を観察し、いじめの早期発見に努めてほしい。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	生徒が佐賀県に誇りや愛着を感じられるような取組ができていると回答した教職員を80%以上とする。	・佐賀を誇りに思う講演会を実施する。 ・鏡山登山や唐津城までのウォーキング等、ふるさとを体験する行事を実施する。 ・総探の時間で、唐津市等と連携して地域学を実施する。	B	・2月に講演会を実施したほか、高校1、2年生では授業を年間2回ずつ実施した。総合的な探究の時間では、唐津市の課題について研究し、成果発表会を実施した。 ・アンケートを実施したところ、「佐賀に誇りや愛着を感じられるような取り組みができている」職員は55%、「佐賀への愛着を感じる」生徒は70%であった。	A	・郷土を誇りに思う教育は大切であり、誇りを持つことで夢が生まれると思う。同時に、世界的な視野を持たせることも非常に重要だと思う。 ・世界平和や日本の発展を考えることで、自分の夢を想像することができると思う。さらに、国や地域のために何ができるか考えてほしい。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を90%以上にする。	・健康に関するアンケート等の中で、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりの発行を通して、望ましい食習慣について啓発する。	A	・12月に行った高校2年生を対象とした健康に関するアンケートにおいて、「健康でいるために食事をしっかりとることは大切・やや大切」という回答は100%であった。 ・毎月発行している保健だよりの中で、食に関する情報提供を行い、新型コロナウイルス感染防止に関する食習慣について取り扱った。	A	・食育については親の認識が重要であり、家庭でしっかりと管理する必要があると思う。 ・特に朝食をしっかりと摂ることが大切だと思う。 ・おいしく食べる知恵を伝えたり、よく味わって食べる習慣を身に付けることが重要だと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外在校時間の上限を周知する。 ・定時退勤日、学校閉庁日を設定する。 ・職員の在校時間を把握し、必要に応じて面談を行う。 ・部活動について効果的かつ十分な休養日を設定する。	B	・時間外在校時間の上限は、日報で毎月全職員に周知した。 ・毎週月曜日を定時退勤日に設定し、夏季休業中の学校閉庁日は10日間設定した。 ・時間外勤務が45h/月を超過した職員は延べ152名(24.3%)、80h/月を超過した職員は延べ16名(2.5%)、100h/月を超過した職員は延べ3名(0.4%)であった。また、時間外勤務の一人当たりの平均は33時間31分/月であった。 ・週2日の部活動休業日は、年間全体では全ての部で実施することができた。 ・留守番電話の導入やメールでの欠席等の連絡が定着し、業務軽減につながった。	B	・このような資料を作成するだけでもたいへんだと思う。生徒が明るく元気な笑顔になるためには、教職員の仕事を減らし、教職員に余裕をつくる必要があると考える。 ・学習指導、生活指導、進路指導など、先生方はご多忙の中、本当に頑張られていると思う。 ・業務を効率的に行い、時間外勤務の削減に努めてほしい。また、ストレスの解消にも努めてほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・学力の向上については、目標を概ね達成することができた。次年度も成果指標を達成するために、電子黒板や学習用PCを有効に活用しながら、わかりやすい授業を実践していきたい。大学入試の結果についても目標を概ね達成することができた。次年度も生徒の進路希望実現のため、大学入試問題研究や進路指導研修を充実させ、教科指導力の向上と進路情報の把握に努めていきたい。また、一般入試はもちろん学校推薦型選抜入試や総合型選抜入試にも対応できる指導体制を構築していきたい。 ・心の教育、健康・体づくりについては、目標を概ね達成することができた。次年度も自他の生命を尊重する心や他者への思いやり、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の充実を図ってきたい。いじめについては、すべての職員が基本方針を理解し、それに基づいて行動できるよう職員研修を充実させた。また、生徒への研修やいじめ防止標語の募集を行った結果、生徒の意識改革が進み、いじめの認知件数は少なかった。 ・業務改善、教職員の働き方改革については、目標を概ね達成することができた。次年度も目標達成に向けてより効果的な取り組みを検討し、業務改善、働き方改革を推進していきたい。
--------------------	---